

ごみの戸別収集について

1 収集方式

(1) 北九州市

市民が指定ごみ袋でごみステーションに排出し、それを市が収集する「ステーション方式」を導入している。収集後の清掃や防鳥ネットの片付けといったステーションの管理は、市民の手によって行われており、こうした活動は地域のコミュニティ活動の一つとして定着している。

(2) 町田市

平成 17 年に家庭ごみ（燃やせるごみ・燃やせないごみ）の指定袋の有料化を行い、あわせて自宅の前等に排出されたごみを収集する「戸別収集」を導入した。（それ以前は、ステーション方式）

令和 8 年 4 月からは容器包装プラスチックの有料指定袋による戸別収集を開始する一方で、かん・びん・ペットボトルなどの資源物等については、引き続き本市のごみステーションに相当する集積所で無料回収を行っている。

2 戸別収集の利点と課題

(1) 利点

- ・ごみステーションではなく、自宅の前等での収集になることで、責任が明確化されるため、ごみ出しルールの遵守等に効果がある。
- ・ステーションまでごみを運ぶ必要がなくなり、排出の利便性が向上する。

(2) 課題

- ・戸別収集はステーション方式に比べ、収集箇所数が大幅に増加するため、現状の収集体制で実施すると、2～3 倍の収集時間が必要となる。
- ・現在と同程度の時間帯で収集する場合には、収集経費（R8 予算ベース：30 億円）が 2 倍超と大幅なコスト増になることが想定されるほか、収集人員や車両の確保も課題となる。

3 北九州市のごみステーションに係る取組

- ・地域の実情に応じた柔軟なごみステーションの配置や「ふれあい収集」を通じて、市民が安心してごみを出せる体制を確保する。
- ・防鳥ネットの無償貸与や環境センターによるきめ細かな相談対応などの散乱対策に引き続き取り組むとともに、散乱防止に効果の高い折り畳み式容器の普及に向け、容器の検討・購入から配送までの負担を軽減する「折り畳み式容器ワンストップ窓口」の設置等を進め、「管理しやすいごみステーション」の実現に向け、地域に寄り添った支援を行う。

【参考】

北九州市と町田市のごみ収集データ

項目	北九州市	町田市
人口(R7.10)	904,289人	420,962人
世帯数(R7.10)	437,836世帯	198,505世帯
面積(R7)	492.3km ²	71.6km ²
建物数(R5)	228,200軒	109,430軒
収集箇所の数	約35,000ヶ所	約95,000ヶ所
1人1日あたりの 家庭ごみ量(R6)	418g	563g
収集方式	ステーション方式	戸別収集方式(一部)
排出場所	ごみステーション	【燃やせるごみ、燃やせないごみ 容器包装プラ】 各家庭の敷地前 【かん・びん・ペット等】 集積所
収集頻度と 指定袋の料金	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭ごみ(週2回) 45L:1枚50円 ・プラスチック(週1回) 45L:1枚20円 ・かん・びん・ペット(週1回) 25L:1枚12円 	<ul style="list-style-type: none"> ・燃やせるごみ(週2回) ・燃やせないごみ(月2回) 40L:1枚64円 ・容器包装プラスチック(週1回) 40L:1枚32円 ・かん・びん・古紙・古着等(週1回) ペット(月2回)電池等(月1回) 集積所のネットに直接排出(袋不要)
集積場所の管理	住民がステーション管理	集積所のみ住民が共同で管理
収集体制	民間委託	直営・民間委託